

評価結果公表票

作成日 平成21年6月16日

【評価実施概要】

事業所番号	0272700998
法人名	有限会社 ダイワサービス
事業所名	グループホーム銀杏苑
所在地	青森県三戸郡五戸町字銀杏木1-45 (電話)0178-61-0311
評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成21年1月23日

【情報提供票より】(平成20年12月10日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成16年6月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 18人, 非常勤 人, 常勤換算	15.9人

(2)建物概要

建物構造	木造長尺カラ-鉄板構 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	洗剤代 500 円他
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		900 円

(4)利用者の概要(平成20年12月10日現在)

利用者人数	17 名	男性 4 名	女性 13 名
要介護1	5 名	要介護2	5 名
要介護3	5 名	要介護4	0 名
要介護5	1 名	要支援2	1 名
年齢	平均 82.7 歳	最低 73 歳	最高 96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	五戸総合病院 小村歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者一人ひとりの状況が詳細に把握されており、利用者の生活の質を高めるために、個々の能力を維持できるよう働きかけと見守りを行っているほか、利用者が介護される一方の立場にならないよう、適切に支援している。
 利用者は地域柄、農業を営んできた方が多く、ホームの隣にあるビニールハウスで農作業をしたり、庭の草取りを行ったりと、これまでの生活を無理なく続けている。また、毎日体操を行い、利用者の機能保持や健康維持に役立てている。
 ホーム敷地内に薬師堂が建設されており、お参り等に訪れる地域住民と会話を交わしたり、ホーム行事に住民や保育園等を招待するなど、交流を図っている。
 アセスメントシートによりこれまでの受療状況を把握しており、利用者や家族が希望する医療機関の受診を支援しているほか、体調変化時等は協力医療機関にいつでも相談することができる。
 職員は利用者の言動を否定したり拒否することなく受け入れており、介助時や声がけ時は利用者の羞恥心に配慮している。また、年長者への尊厳を持ち、肉親と同じように接するよう心掛けている。
 居室には、馴染みの筆筒や家具、生活用品、寝具等が持込まれ、職員と一緒に一人ひとりに合ったその人らしい部屋づくりを行っている。

【特に改善が求められる点】

ボランティア等の外部の方の学習の機会ともなるので、最初にプライバシー保護について話をすることに期待したい。
 全職員が地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について、理解を深める取り組みを行うことに期待したい。
 やむを得ず身体拘束を行う場合の理由や方法、期間、経過観察について記録を残すほか、家族から説明を行い同意を得る体制を整えることに期待したい。
 災害時に備え、飲料水や寒さをしのげる物品等を準備することに期待したい。
 引き続き自治体栄養士から助言が得られるよう働きかけることに期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価を基に職員会議で話し合いを行い、改善策等について検討し、今後のより良いケアサービスに活かせるよう努めている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>各棟管理者が自己評価票を作成し、職員や苑長、副苑長等が確認を行うなど、全職員で取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議には、苑長、町介護保険担当課長、家族、地域住民等が参加し、ホームの状況を報告するとともに、参加者から自由な意見をいただき、ホーム運営に活かしている。</p> <p>また、会議には自己評価及び外部評価の結果について説明し報告している。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>毎月、利用者毎にホーム便りを作成し、担当者からの連絡文書を記載して報告している。利用者の金銭管理の状況については、毎月1回領収書を添えて報告している。</p> <p>また、家族会を組織しており、ホームと信頼関係を築いており、意見や要望を出しやすい環境を整えている。ホーム内に意見箱を設置するほか、内部・外部苦情受付窓口を明示しており、出された意見等は、日々のサービスに反映させていくよう取り組んでいる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホーム敷地内の薬師堂を訪れる住民と会話を交わすなど、近隣住民と日常的に交流が図られている。</p> <p>また、ホームの夏祭りやクリスマス会等の行事に、近隣住民を招いたり、地域行事に職員が参加するなど、ホームや認知症の普及活動を行っている。さらにホームでは専門学校生等のボランティアを受け入れている。</p>

【各領域の取組状況】

領域	取組み状況
I 理念に基づく運営	<p>全職員が地域密着型サービスの役割を理解しており、ホーム独自の理念を定め、利用者には一人ひとりのできることを活かしながら、スタッフや家族、地域と共に、その人らしい生活を送れるように支援している。</p> <p>また、理念を実現する為に、「利用者様は自分の肉親。施設は利用者様の家」という職員心得が定め、ホーム内に理念と共に掲示し、日々のサービス提供場面に反映させている。</p> <p>職員の資質向上を目的に、年間研修計画を作成し、職員が参加しやすい環境を整えているほか、内部研修を2ヶ月毎に実施している。受講後は報告書を作成し、書面や口頭にて全職員に周知している。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>利用者や家族が安心してサービスを利用できるよう、相談受付段階から利用者の視点にたった支援を行っており、利用者や家族の意向に沿えるよう調整している。また、利用者や家族等が不安にならないよう、入所前の面接やホーム見学等を実施している。</p> <p>職員は、アセスメントシートや日頃の暮らしぶりを観察し、利用者の力量等を把握しており、利用者が介護される一方の立場にならないよう努めている。また、農作業等の得意分野で力を発揮できるよう職員が見守り、共感・理解するよう努めている。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>介護計画は、利用者がその人らしく暮らし続けることができるよう、利用者の意見や思いを聞くよう努め、毎月のサービス担当者会議で他職員の気づきを基に話し合っ作成している。必要に応じて家族や関係者等からの意見を反映させ、個別具体的なものとなっている。</p> <p>また、職員が介護計画を意識したケアを提供できるよう個人ファイルに個々のニーズや目標、介護計画が綴られている。また、毎月職員会議で評価し、変更が必要な場合には実施期間にかかわらず見直しを行っている。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>職員は利用者の言動を否定したり拒否することなく受け入れており、介助時や声がけ時は利用者の羞恥心に配慮している。また、年長者への尊厳を持ち、肉親と同じように接するよう心掛けている。職員は個人情報保護法について理解しており、利用者の個人ファイル等は事務所内に保管している。</p> <p>アセスメントのほか、家族や職員の情報から、利用者の力量や希望に応じて、菜園や掃除等の役割や楽しみごとを促している。また、毎月運動会やドライブ等の行事を開催し、気晴らしに繋がるよう配慮している。</p>

評 価 報 告 書

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全職員が地域密着型サービスの役割を理解しており、「1.尊厳2.安心3.自立4.継続」というホーム独自の基本理念を定め、利用者には一人ひとりのできることを活かしながら、スタッフや家族、地域と共に、その人らしい生活を送れるように支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を実現する為に、「利用者様は自分の肉親。施設は利用者様の家」という職員心得を定め、ホーム内に理念と共に掲示し、日々のサービス提供場面に反映させている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	ホーム敷地内の薬師堂を訪れる住民と会話を交わすなど、近隣住民と日常的に交流が図られている。またホーム夏祭りやクリスマス会等の行事の際に、近隣住民を招いたり、地域行事に職員が参加するなど、ホームや認知症の普及活動を行っている。さらにホームでは専門学校生等のボランティアを受け入れているが、外部の方がホームを訪れる際に、利用者のプライバシーに関して十分配慮するまでには至っていない。	○	ボランティア等の外部の方の学習の機会ともなるので、最初にプライバシー保護について話することに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価のねらいや意義は職員会議を通じて周知され、全職員が理解しており、自己評価は各棟管理者を作成し、職員や苑長、副苑長等が確認を行うなど、全職員で取り組んでいる。また、外部評価の結果は職員会議にて話し合い改善策等について検討している。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、苑長、町介護保険担当課長、家族、地域住民等が参加し、ホームの状況を報告するとともに、参加者から自由な意見をいただき、ホーム運営に活かしている。会議には自己評価及び外部評価の結果について説明し報告している。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町担当課長等と連携をとり、様々な面で助言を得ている。また、役場で開催する地域ケア会議に出席し、困難事例について協議したり、情報交換を行うなど、密接な連携を行っている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業の利用から成年後見制度に移行しようとしている利用者があり、町社会福祉協議会と連携し進めている。しかし、全職員が制度について理解を深める取り組みを行うまでには至っていない。	○	全職員が地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について、理解を深める取り組みを行うことに期待したい。
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は身体虐待について、職員会議等で心身を含めた事例を取り上げ、職員には虐待は行わないという共通認識が浸透し、実践している。また、管理者や職員は日々のケアの提供場面を通じ、虐待防止に努めている。虐待を発見した場合の対応方法や報告の流れ等についての取り決めがあり、全職員が理解している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、ホームの理念や取り組みについて十分に説明を行い、利用者や家族から意見を引き出す働きかけを行っている。契約を改定する際には事前に周知し、同意を得た上で行うほか、退去時についても契約に基づき説明し、十分理解・納得してもらった上で、転居先と連携するなどの支援を行っている。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用者毎に作成するホーム便りで暮らしぶり等を写真と共に掲載し、更に担当者からの連絡文書を記載し報告している。利用者の金銭管理の状況については、毎月1回領収書を添えて報告している。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会が組織され、ホームとの信頼関係を築いており、家族が意見や要望を出しやすい環境を整えている。また、ホーム内に意見箱を設置するほか、内部・外部苦情受付窓口を明示しており、出された意見や要望は、日々のサービスに反映させて行くよう取り組んでいる。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	担当職員の交代による利用者への影響を十分理解している。また、職員の退職等により、ユニット間や他事業所への異動を行う際は、利用者へ十分に説明を行うほか、スタッフの顔写真をホーム内に掲示し、周知を図っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資質向上を目的に、年間研修計画を作成し、職員が参加しやすい環境を整えているほか、内部研修を2ヶ月毎に実施している。また、研修受講後は報告書を作成するほか、書面や口頭にて全職員に周知している。副苑長が職員の日々の業務に関する助言を行っている。		
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は同業者と交流がサービスの質の向上に繋がることを認識し、県や地区のグループホーム協会に加入している。また、町の地域ケア会議に参加し、地域の福祉事業者との交流や情報交換が図られ、職員の育成にも役立てている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族が安心してサービスを利用できるよう、相談受付段階から利用者の視点にたった支援を行っており、利用者や家族の意向に沿えるよう調整している。また、利用者や家族等が不安にならないよう、入所前の面接やホーム見学等を実施している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、アセスメントシートや日頃の暮らしぶりを観察し、利用者の力量等を把握しており、利用者が介護される一方の立場にならないよう努めている。また、農作業等の得意分野で力を発揮できるよう職員が見守り、共感・理解するよう努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者に日常的に笑顔で接し、利用者のしぐさや言葉から、興味や得意分野の把握に努め、希望や意向に沿った支援をしている。自分の意向を十分に表現できない利用者に対しては、家族や兄弟、面会者等から情報収集を行うと共に、職員間で話し合い、利用者の立場に立った意向把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、利用者がその人らしく暮らし続けることができるよう、可能な限り利用者の意見や思いを聞くよう努め、毎月のサービス担当者会議で他職員の気づきを基に話し合って作成している。必要に応じて家族や関係者等からの意見を反映させており、一人ひとりの個性を大切にしている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状況に合わせ、実施期間が明示されており、職員が介護計画を意識したケアを提供できるよう個人ファイルに個々のニーズや目標、介護計画が綴られている。また、毎月職員会議で評価し、変更が必要な場合には実施期間にかかわらず見直しを行っている。見直しを行なう際は、医療機関や家族等の情報を参考に再アセスメントを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院の送迎や薬の受け取りサービス、毎月1回出張理美容など、利用者の暮らしを支える為に柔軟な支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	アセスメントシートによりこれまでの受療状況を把握している。また、利用者や家族の希望する医療機関の受診を支援しているほか、体調変化時等は協力医療機関にいつでも相談することができる。通院は原則家族が行っており、受診結果等は共有している。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化等に対するホームの方針は明確にしており、日常的な健康管理や急変時の対応について、医療機関や利用者、家族等と連携を密にし、意思統一を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の言動を否定したり拒否することなく受け入れており、介助時や声がけ時は利用者の羞恥心に配慮している。また、年長者への尊厳を持ち、肉親と同じように接するよう心掛けている。職員は個人情報保護法について理解しており、利用者の個人ファイル等は事務所内に保管している。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者を急かすことなく、利用者のペースや体調、気分を把握し、一人ひとりに合わせた支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の希望等を考慮し作成されているほか、準備や後片付け等を一緒に行っている。また、食事の際は出来るだけ利用者が自分で食事をとれるよう工夫をし、適切なサポートを行い、職員も一緒におしゃべりをするなど楽しい食事となっている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴が決まっており、利用者の入浴習慣や好みを把握した上で意向に沿った対応をしている。また、入浴は、職員と利用者が1対1で行い、利用者の羞恥心に配慮し、つかりすぎや洗身等に対して適切な支援を行っている。入浴を拒否する方に対しては、随時個別に声かけを行うなどの工夫をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アセスメントのほか、家族や職員の情報から、利用者の力量や希望に応じて、菜園や掃除等の役割や楽しみごとを促している。また、毎月運動会やドライブ等の行事を開催し、気晴らしに繋がるよう配慮している。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	庭のベンチでの日光浴や庭の草取り、ビニールハウスでの農作業等、利用者の意向に沿って可能な限り対応している。また、ドライブや買い物などの外出時は、法人内のマイクロバスを利用するなど、利用者の身体状態に合わせた支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者等が研修で得た知識を職員に伝達し、身体拘束のないケアを全職員が実践している。しかし、やむを得ず身体拘束を行う場合の理由や方法、期間、経過観察についての記録を残す体制が整っていない。また、家族から同意を得るまでには至っていない。	○	やむを得ず身体拘束を行う場合について理由や方法、期間、経過観察について記録を残す体制を整えるほか、家族に説明を行い同意を得ることに期待したい。
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関を施錠していないほか、居室等は常時施錠していない。外出傾向が察知できるよう見守りを行うほか、玄関にセンサーを設置し、察知した場合は付き添い等の支援を行っている。やむを得ず施錠を行う場合に家族に説明し同意を得る体制が整っているほか、無断外出時に備え運営推進会議を通して、近隣から協力が得られるよう働きかけている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は消防署と連携して年2回実施しており、夜間等職員が手薄になる時間帯も想定し行われている。また、災害時に、近隣の理解・協力が得られるよう日頃から連携をしているほか、食料の備蓄を行っている。しかし、飲料水や寒さをしのげるような物品等を準備するまでには至っていない。	○	災害時に備え、飲料水や寒さをしのげる物品等を準備することに期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	料理は全般的に薄味となっており、主菜、副菜、果物とバランスの良い献立となっている。また、食事や水分の摂取量を必要に応じて記録されている。但し、栄養士等専門家による指導・助言を得られる体制が整っておらず、提供する食事の1日の総摂取カロリー等を把握するまでには至っていない。	○	引き続き自治体栄養士から助言が得られるよう働きかけることに期待したい。
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策マニュアルを作成しており、関連機関より情報収集し、必要に応じて見直しているほか、マニュアルに沿った勉強会を行っている。得られた情報は利用者や家族等に周知するほか、インフルエンザ予防摂取や、玄関に消毒液・マスクを準備するなど、来訪者を含めた感染症予防に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは明るく、ダイニングテーブルが設置されているほか、畳スペースにコタツが置くなど、家庭的な雰囲気となっている。また、職員の立てる音やテレビの音量は適切で、大きくとられた窓から四季の状況を感じ取ることができ落ち着いて過ごすことができるよう工夫している。		
		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、馴染みの筆筒や家具、生活用品、寝具等の持込まれ、職員と一緒に一人ひとりに合ったその人らしい部屋づくりを行っている。		

※ は、重点項目。